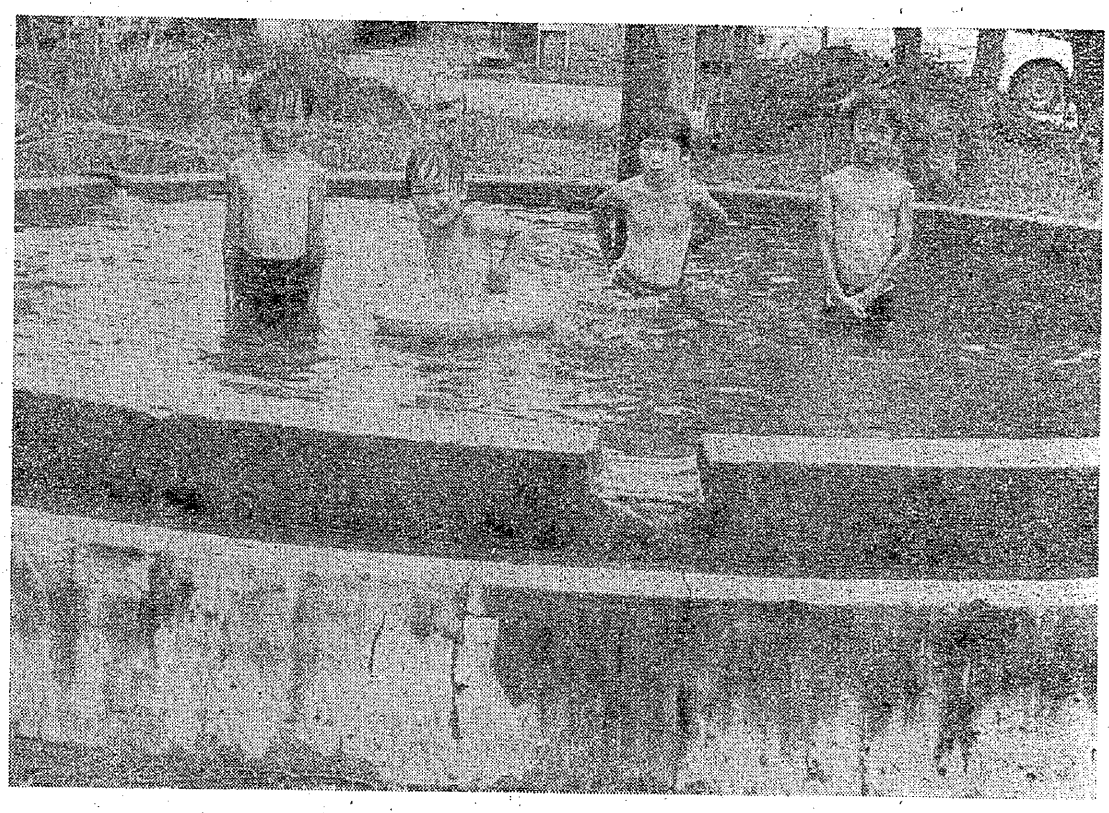

水遊びに興ずる原万田社宅の子どもたち

三池主婦会定期大会終る

生活を守るため闘う

運動の取り組みは苦しいが
許せぬ、自民・独占の横暴

三池主婦会は第二十六回定期大会を、代議員百二十名の参加を得て五日午前九時半より、荒尾市公会堂で開催しました。

まずはじめに島会長より、「第二十六回定期大会を迎え、婦人のおかれている現状と、三池主婦会が今後取り組むべき課題、内職・パートという劣悪な条件の中で働きながらすすめる主婦会運動の大切さや、暮らしの問題、平和の問題、国際児童年における母親の役割、労働基準法改悪反対の闘いや総選挙にむけての意志統一をし、主婦会運動前進のため、共に手をとり合って頑張りましょう」、との趣旨のあいさつを受けました。

引き続き来賓として、組合を代表して前川書記次長より、「主婦会結成二十六年の今日的意義と石炭政策の現状、統一活動の必要性や総選挙後予想される狂乱物価、その折だけに主婦会運動のますます強まる重要性」についてのあいさつを受けました。

他に来賓として、大地評の長谷川会長、荒地評の武島会長、坂井・細谷衆議院議員秘書、労金の片島大牟田支店長、政治局より浦川県議をはじめ大牟田・荒尾の両市議（運尾、湯村、坂本、百田、福川、民本各氏）、それに宮川元三池労組組合長夫人のまさるさん方が参加され、暖いごあいさつをいただきました。

祝電：福岡県評主婦の会、熊本県評主婦の会、労働大学、阿具根　登参議院議員、酒井誉為熊本県議、五島頼子筑紫野市議、吉田アツさん方より寄せられました。

その中で討議がなされましたが、今年も自民党と独占資本の儲け本位の政治で、私たち炭鉱労働者には減量経営の名のもとに、人命軽視の合理化がおしつけられ、災害は増加し、三池では今年に入ってからでさえ四名の死亡事故がおきています。

第二十六回の定期大会は、情勢のきびしさを直視しながら、生活や生命、権利、平和を守る主婦会運動を前進させていくため、みんなで話し合いながら意志統一を計り、次の具体的運動目標をかかげた一九七九年度運動方針を全員で確認しました。

①国民春闘。②食管法を守る闘い。③消費者米価値上げ反対。④諸物価値上げ反対。⑤消費者条例の学習。
二、生命・健康を守る合理化反対闘争。
三、統一活動について。
四、生協・労金運動について。
五、重税に反対し、社会保障拡充の闘い。
六、子供を守る運動について。
七、組織を強めるために。
八、働く婦人の問題。
九、平和を守る運動について。
十、行事について。

最後に、次の新役員を選出して閉会しました。新役員は次の通りです。

会長＝島文枝、事務局長＝平川弘子、監査＝山本つや子（四山）・三川より一名を選出。それに四山指導部長＝飯田誠子、三川指導部長＝斉藤清子・蓮尾文子、本所指導部長＝東敬子、港務指導部長＝大石知恵子。

（この項＝平川事務局長・記）

主婦会運動へ決意

本所指導部　福坂和子

私たち三池主婦会の力が中心になっております。生命を生み出す母親の運動として続けてほしい」。

また他の方からは「三池主婦会が結成されてすぐの頃は、組合とともにあゆむだけの組織だったのが、今では一歩出て、婦人労働者として進出している主婦としての活動体となっています。むずかしさもあると思うが、亡くなられた元宮川組合長の意志をうけついでともに闘いましょう」、というはげましの言葉がありました。

その通りで、ほとんどの主婦が仕事を持ちながらの活動ですので大変ですけど、代議員の一人として、大会で確認されたことを分会でどう伝え、生かしていくか、私にとって大きな任務だと思っています。

その日大会が終ってから、分会役員の一人として、会員の方々と一緒に選挙その他で闘って来た一年でしたけど、この旅行に参加して、漁火の浮かぶ夜の有明海を眺めながら、活魚料理に舌つづみをうつとき、本当によかったと思いました。

その夜は、夜の更けるのも忘れて歓談し、歌でえを交流するなど楽しいときを過ごすことができましたが、明日からもみんなと一緒に頑張りたいと思っています。

×

主婦の皆さん、この欄に、うれしかったこと、思っていることをお寄せください。**編集部**

受川さんのお母さんをお見舞いして

三川指導部　斉藤清子

受川孝さん（CO患者。熊大病院入院中）のお母さんが、十六年間の看病疲れから病気になられ、息子の孝さんとベッドを並べ闘っておられます。

先日会長、事務局長とともにお見舞いにいきましたが、悔し涙が出てしかたありませんでした。さいわいおたずねした時間、病室でおられる受川さんのお母さん。「孝さんのためにも、がんばってください」と、一日も早い全快を祈りながら帰りました。

お母さんのすぐ横のベッドに寝ていられる息子の孝さんは、相変らずひとことの口もきけず、また依然として笑いを忘れたままでした。それでも母親の病気が気になるのか、大変気嫌が悪いようでした。

私たちは心をひきしめ、爆発当時の怒りを今こそたぎらせ、真剣にCO闘争を取り組むことを考えなければならないのではないでしょうか。

死没囚人労働者法要

市民の関心高まるなか

本紙前号に紹介したように、第十一回死没囚人労働者法要は十日、大牟田市久保田町の蓮心寺でしめやかに営まれた。

三池労組の渋田組合長、三池主婦会の島会長をはじめ、ちょうど帰省中の細谷代議士そのほか、宗教家や市内の文化人、県会議員、大地評などの労働組合関係など代表者が参列、仏前に合掌、そして三池炭鉱、あるいは大牟田市の発展の人柱となった故人たちの冥福を、心から祈った。

法要が終ったあと、市内の四箇所に点在する囚人墓地を車でめぐり、お参りした人もあったが、墓地にはたれがささげたのか、花などが献げられ、賽銭までが手向けられていた。

どうして法要は盛大に終ったが、大牟田囚人墓地保存会（浦川守代表）は「年々市民の関心も高まってきた」として、心から感謝している。

法要をNHKがテレビ放送

右の、死没囚人労働者法要を契機に、NHKが大牟田市の囚人墓地保存運動に注目、このたび朝の「話題の窓」に取りあげることになった。題は「ある法要会」で、きたる二十九日朝七時二十分から十五分間（総合で）放送される。すでに知られているように囚人墓地は大牟田で四箇所にその影をとどめている。一ノ浦墓地内にある〝小墓石群〟（法名がわりに番号が刻まれている）。市内竜湖瀬の順照寺の境内に建つ〝含霧之碑〟大砂社宅上の〝解脱塔〟。権現山中腹の〝倶会一処〟。みんなの力で守っていきたい。

蓮心寺で営まれた、死没囚人労働者法要。